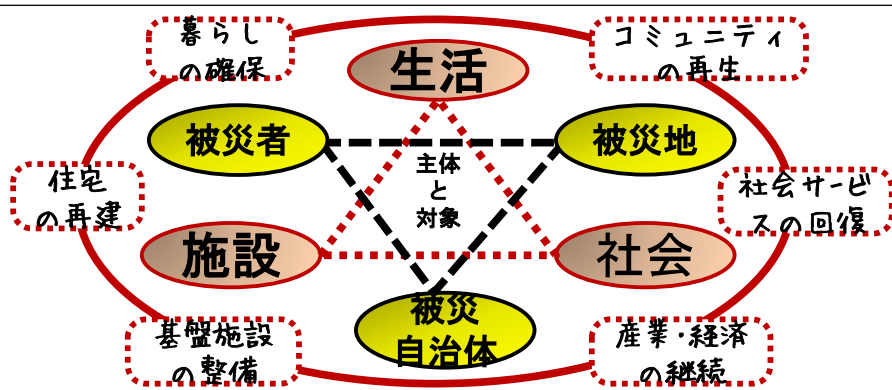


日本災害復興学会 の主な活動

2018年6月5日

日本災害復興学会 特別顧問(前学会長)
首都大学東京/東京都立大学 名誉教授
中林一樹



災害復興とは、被災者が生活を再建し、被災地が社会を再生し、再度被災を軽減する集落・市街地の安全化を、被災自治体が被災者・被災地と協働して、生活再建・地域再生と持続的発展を目指す「被災者復興」と「被災地復興」の総体的取り組みである。

<p>災害復興学の確立と研究の向上に努めるとともに、被災体験の継承・被災地支援の交流をはかり、被災地の再建、被災者の再起に資する。</p>	<p>学会の運営体制</p> <p>(1)理事会 (2)総務委員会 (3)企画委員会 (4)広報委員会 (5)学術推進委員会 (6)学会誌編集委員会 (7)復興支援委員会</p>
<p>会員 470</p> <p>・正会員 ・学生会員 ・購読会員 ・賛助会員</p>	<p>研究会 活動</p> <p>(1)復興法制度研究会 (2)被災の教訓を未来に伝える 研究連絡会 (3)首都直下地震復興研究会</p>
<p>学会の事業</p> <p>(1) 災害復興の学術的調査研究 (2) 被災地・被災者の支援・交流 (3) 研究集会及び講演会の開催 (4) 研究奨励及び研究業績の表彰 (5) 機関誌・その他の刊行物の発行 (6) 災害復興学の普及・教育の推進 (7) その他、学会目的に必要な事業</p>	<p>学会10周年・公募研究等</p> <p>◎福島復興研究会 ◎復興ワードマップ研究会 ◎被災地レジリエンスCRM研究会 ◎当日復興研究会 ◎関西復興アーカイブ研究会 ◎復興法制度研究会 ◎被災の教訓を未来に伝える 研究連絡会 ◎首都直下地震復興研究会 ◎復興とは何か連続ワークショップ</p>
<p>全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVORD)との活動連携協定の締結</p>	

災害復興学会 News Letters(30号) 学会10周年特別号 から

- 会長所感「今、再び、「現場性」と「融合性」を問う」
 - ・初代会長の宣言 ①多様な主体と協働する「現場性」
 - ②職際・学際・国際の「融合性」
- 復興学会に求められるもの—当事者から学会へ—
 - ・「多様な復興メニューを」
芦屋西部地区まち再興協議会事務局長
 - ・「ひとつひとつの家が建つこと」 熊本県西原村住民
 - ・「(被災者の)覚悟を伴う復興を」
元大槌町PTA連合会・現町議
 - ・「一緒に被災地再生の知恵を」 福島市・造園業
 - ・「コミュニティ政策の視点をもっと」
茨城NPOセンター・コモンズ代表理事
 - ・「火山観光地つなぐ役割を」 箱根強羅観光協会専務理事

日本災害復興学会のHPIに是非一度お越しください！